社会科シリーズ掲載

授業グレードアップ Vol. 15

中学校における歴史学習の工夫③ ～資料の見させ方･考えさせ方～

社会科の授業では、資料という具体的な事実から社会的事象の意味について考えさせ、子どもたちの社会認識を深めていきます。今回は、資料に示された「事実」から「意味」を考える資料の見させ方・考えさせ方についての実践例を紹介します。

《中学歴史「江戸幕府の成立と支配のしくみ」》

東京書籍『新しい社会　歴史』に掲載されている資料「おもな大名の配置」と「江戸幕府のしくみ」の見させ方・考えさせ方です。この資料からは、主に幕府と藩（大名）との関係に着目させて、幕府の大名統制等について考えさせます。

①　「目に見えるもの・こと」は何か

初めに行うことは、「目に見えるもの・こと」をできるだけたくさん見つけさせることです。つまり、資料に表されているもの・ことを洗い出させることです。これは、すべての子どもが取り組みやすい学習活動であり、資料に示されている「事実」を確実に読み取らせること（事実認識）につながります。

事実認識

- ○ 大名には「親藩・譜代大名・外様大名」の三つの種類がある。
- ○ 外様大名は、江戸から遠いところに配置されている。
- ○ 江戸の近くには親藩や譜代大名が多く配置されている。
- ○ 親藩や譜代大名は、江戸から遠いところにも配置されている。
- ○ 石高の大きな大名は、江戸から遠いところに多い。
- ○ 京都や大阪、長崎などの主要な都市や鉱山は幕府が直接支配している。
- ○ 京都所司代を設置している。等

②　目に見えるもの・ことから「考えられること」は何か

次に、読み取らせた「事実」から幕府の大名配置等の意図について「考えられること」は何かを考察させます。これにより、社会的事象に対して、「事実認識」から「意味認識」への転換が図られます。

意味認識

- ○ 伊達氏や島津氏など、石高の大きな外様大名が江戸から遠くに配置されているのは、幕府を攻撃しにくいようにするためではないか。
- ○ 九州では、多くの外様大名の中に譜代大名が配置されている。これは、外様大名を監視するために配置したのではないか。
- ○ 鉱山を直接支配したのは、貨幣の原料を幕府が独占するためではないか。
- ○ 京都所司代を置いたのは、江戸から京都までの距離が離れていて朝廷の様子が分かりにくいので、朝廷の動きを監視し情報を得るためではないか。等

このように、**「見えるもの・こと」→「考えられること」**という段階を踏んだ指導により、資料に表れた**「事実」**から社会的事象のもつ**「意味」**を考える学びが成立します。